

緑内障のインプラント手術

「緑内障は手術できますか？」とよくご質問を受けることがあります。答えは「はい」でもあり、「いいえ」でもあります。

「はい」の理由：緑内障手術には線維柱帯切開術、線維柱帯切除術、毛様体光凝固、線維柱帯形成術など、いろいろな術式が存在します。眼圧や視野障害の進行の程度に応じていろいろな術式が適用になることがあります。

「いいえ」の理由：2013年、現時点で、緑内障手術が行っていることは「眼圧下降」です。目的は、「眼圧を下げることによって今後の進行を抑える」ことです。白内障手術のように、**手術により今よりも視機能(視力や視野)が改善、回復することは期待できません。**

従来の緑内障手術は「流出路再建術」あるいは「濾過手術」に大別されてきましたが、近年、「インプラント手術」と呼ばれる新しい術式が行われるようになってきました。「インプラント」とは「埋め込む」という意味があり、眼の壁にインプラントという「管」を埋め込んで、管を通して房水という眼の中の水分を眼の外側に流す手術方法です。「インプラント」には、現在、「エクスプレス」手術と「シャントチューブ」手術の2つがあります。

＜エクスプレス手術＞



釘のような形で中が空洞になっている特殊なデザインされた管を眼球壁に刺して、房水を流します。眼球壁を切って穴を開けずに済むので、出血が少なく抑えられるメリットがあります。そのため、血液が固まりにくくなるような薬を内服している方にも比較的行きやすい手術方法です。**主に初回、あるいは2回目の手術に用います。**術後、入院中にレーザーで縫合糸を切ることによって眼圧を微調整するため、2週間程度の入院が必要になります。

＜シャントチューブ手術＞



カプセルと細長いストローのような管が一体となった特殊なデザインされたインプラントを眼球の壁に縫い付け、細長い管が眼内に挿入されます。細長い管が付いているため、これまでの手術で創を作っていない場所まで房水を流すことができます。**何度か手術をしても眼圧が十分に下がらない症例に対しても使用が可能です。**手術直後は眼圧が下がりすぎることもあるので、1週間程度の入院が必要となります。